令和８年９月９日

保護者の皆様

県立横浜旭陵高等学校
校　長　　竹村　健二

令和８年度第１回「生徒による授業評価」集計結果について(ご報告)

仲秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、神奈川県では例年、授業改善の取組みに資するものとして年に２回「生徒による授業評価」を実施しておりますが、今年度の本校における第１回（前期）の実施結果がまとまりましたので、次のとおりご報告申し上げます。

１　アンケート設問

大項目	番号	小　項　目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。※他者とは、他の生徒・教員等を言う。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で「できるようになったこと」が増えたり「わからない所」に気づいたりしたことがありましたか。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。※他者とは、他の生徒・教員等を言う。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
認知変容について	8	４月に授業が始まってから、「自分の考え方を変えることで、自分の周りの人や出来事に対する考え方や感じ方が良い方向に変わった」という経験をしましたか。
	9	昨年度（1 年次は中学生の時）よりも、自分の考え方を変えることで、授業に前向きに取り組めるようになりましたか。

アンケートの設問は、県の共通の設定項目である上記の７項目に加えて、本校独自の設定項目である「認知変容について」における２つの項目が設定されています。その各項目に対して、「４かなり当てはまる」「３ほぼ当てはまる」「２あまり当てはまらない」「１ほとんど当てはまらない」の４段階で評価し、回答します。

２　調査対象者数

実施したアンケートの教科毎の回答者数は次のとおりです。

教科	国語	地歴・公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報	総合
人数(人)	178	152	60	122	168	126	187	64	41	125

３　調査結果についての分析

全体として肯定的な評価（４と３）が各設問で９割を超え、生徒の満足度や学習への意欲の高さがうかがえます。一方で、一部の教科において他者の考えを通じた自己の考えの深化（設問５）や、認知の変容（設問８）にやや低い傾向が見られます。生徒が主体的に学びを深め、多角的な視点や考え方を広げるための工夫が、今後の重要な課題です。

４　今後の授業改善に向けて

本校は、一人一台端末を効果的に活用し、個に応じた指導と生徒同士など多様な他者と協働しながら行う学びを充実させる取り組みを各教科で進めるとともに、生徒の自己肯定感を育むために、生徒がわかったと思える授業づくりに取り組んでいます。今後はＩＣＴ端末や生成ＡＩ等の適切な活用により意見共有を活性化し、他者との対話の機会を増やすなど、対話的な学びのハードルを下げ、より一層生徒が自己の成長や変容を実感できる授業づくりを目指します。また、授業の初めに単元の明確なゴールやねらいを提示し、振り返りによる課題の問いかけや、一人ひとりの習熟度に寄り添った丁寧な個別支援を継続することで、主体的な学びを支援していきます。

問合せ先
副校長　小　原
電話　045(953)1005

5　集計結果

教科	評価	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
国語	4	47.2%	46.1%	47.2%	51.1%	42.1%	48.9%	49.4%	44.4%	47.2%
	3	43.8%	43.8%	43.8%	42.7%	46.6%	41.0%	40.4%	45.5%	43.8%
	2	6.2%	7.9%	7.3%	4.5%	8.4%	7.9%	8.4%	6.7%	5.6%
	1	2.8%	2.2%	1.7%	1.7%	2.8%	2.2%	1.7%	3.4%	3.4%
地歴・公民	4	51.3%	53.9%	57.2%	53.9%	53.9%	50.7%	58.6%	52.6%	55.3%
	3	40.8%	38.8%	36.2%	38.8%	38.2%	40.8%	35.5%	36.8%	36.8%
	2	6.6%	5.9%	5.3%	5.9%	5.9%	5.9%	3.3%	7.2%	5.3%
	1	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	2.0%	2.6%	2.6%	3.3%	2.6%
数学	4	50.0%	53.3%	53.3%	60.0%	50.0%	58.3%	56.7%	55.0%	61.7%
	3	43.3%	36.7%	45.0%	40.0%	40.0%	38.3%	40.0%	40.0%	38.3%
	2	5.0%	10.0%	1.7%	0.0%	10.0%	3.3%	3.3%	3.3%	0.0%
	1	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
理科	4	54.1%	50.0%	50.8%	54.9%	48.4%	47.5%	52.5%	47.5%	48.4%
	3	39.3%	45.9%	43.4%	40.2%	44.3%	46.7%	41.8%	42.6%	42.6%
	2	4.9%	4.1%	4.9%	4.9%	6.6%	4.9%	4.9%	9.0%	8.2%
	1	1.6%	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%
保健・体育	4	60.7%	50.6%	56.5%	63.1%	53.6%	56.0%	57.7%	54.8%	58.9%
	3	38.1%	42.9%	42.3%	34.5%	41.7%	41.1%	39.3%	39.9%	38.1%
	2	1.2%	4.2%	1.2%	2.4%	3.6%	2.4%	2.4%	4.2%	2.4%
	1	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.6%	0.6%	1.2%	0.6%
芸術	4	54.0%	50.0%	53.2%	60.3%	55.6%	54.8%	54.0%	52.4%	54.0%
	3	41.3%	46.8%	41.3%	38.9%	42.1%	42.1%	45.2%	42.9%	42.1%
	2	2.4%	3.2%	5.6%	0.8%	2.4%	3.2%	0.8%	4.8%	4.0%
	1	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
外国語	4	51.3%	51.9%	51.3%	55.6%	50.3%	54.5%	54.0%	54.0%	53.5%
	3	42.2%	44.4%	44.9%	43.3%	46.0%	40.6%	41.7%	41.2%	41.2%
	2	5.3%	3.2%	2.7%	1.1%	3.2%	4.3%	3.2%	3.7%	4.3%
	1	1.1%	0.5%	1.1%	0.0%	0.5%	0.5%	1.1%	1.1%	1.1%
家庭	4	53.1%	53.1%	59.4%	60.9%	54.7%	62.5%	60.9%	59.4%	60.9%
	3	43.8%	43.8%	39.1%	39.1%	43.8%	37.5%	39.1%	39.1%	39.1%
	2	3.1%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
情報	4	34.1%	29.3%	29.3%	39.0%	34.1%	26.8%	24.4%	26.8%	29.3%
	3	53.7%	53.7%	63.4%	51.2%	43.9%	56.1%	61.0%	53.7%	48.8%
	2	12.2%	9.8%	2.4%	9.8%	19.5%	14.6%	14.6%	12.2%	19.5%
	1	0.0%	7.3%	4.9%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%	7.3%	2.4%
キャリア	4	51.2%	49.6%	53.6%	51.2%	48.8%	50.4%	53.6%	53.6%	54.4%
	3	47.2%	44.0%	44.8%	43.2%	45.6%	45.6%	42.4%	42.4%	44.0%
	2	1.6%	5.6%	1.6%	5.6%	4.8%	4.0%	4.0%	4.0%	1.6%
	1	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体平均	4	51.9%	49.8%	52.2%	55.6%	49.8%	51.9%	53.6%	51.0%	53.1%
	3	42.3%	43.6%	43.0%	40.5%	43.3%	42.2%	41.2%	41.7%	41.1%
	2	4.4%	5.1%	3.8%	3.3%	5.5%	4.7%	4.1%	5.4%	4.5%
	1	1.2%	1.3%	0.8%	0.4%	1.2%	1.0%	0.9%	1.7%	1.2%

6　教科での分析と改善に向けて

教科	授業評価の結果から読み取れる課題など	今後の授業改善に向けて
国語	①設問５について、他の項目と比べやや低い集計結果が出た。授業は、クラスで行うわけではないので、ペアワークやグループワークへの敷居が高くなってしまう側面がある。 ②設問８について、 LHR の時間だけではなく、授業内の活動でも生徒の認知が変容するような内容を心がけた授業づくりをしたい。	・①の課題に対して、ロイロノートやGoogleクラスルームを活用することによってペアワークやグループワークへの敷居を低くすることができると考えられる。また、ただ意見を集めたり、話し合わせたりするだけではなく、集めた意見を教員がまとめて整理することによって「自らの考えを広げ深める」という部分の成長にもつながる。 ・②の課題に対して、国語という教科は生徒の認知の変容をおこしやすい教科であると考えられる。それは、教材の内容が生徒の道徳心、人生観、美意識などの内面にうったえかけるものが多くあるためである。単純にテストに向けて必要な発問を投げかけるだけではなく、生徒自身の意見を引き出したり、教員の解釈や体験談を交えたり、他の生徒の意見を共有したりすることによって、生徒の認知の変容をうながしたい。 ・最近、生成AIの技術が発達している。そのことによって、レポートや言語活動にも生成AIの力を借りる生徒が増えてきた。生成AIに対するスタンスは教員によってさまざまであり、生徒にはどの程度生成AIを使用してよいのかをはかっているような様子も見られる。同じ成果物でも、評価する項目（書く力なのか、読む力なのか）を判断基準に、生徒には利用についての基準を明確に示したい。また、明らかにＡＩだと分かるような文体（不自然なほど難しい言葉を多用する、言葉遣いが固い）で、自分では何も調べず不正確な情報を含んでいたり授業の文脈をふまえていなかったりする成果物を提出する生徒も増えてきたため、その指導もしっかりと行いたい。
地理・歴史・公民	すべての科目および項目で、生徒からの評価は４や３に集中しており、おおむね高い評価を得られた。 歴史総合、倫理、政治・経済に１の評価があった。特に認知変容に関する設問８が、相対的に低い評価だった。	本校には地歴公民科を苦手とする生徒が多いため、学習に困難を抱える生徒への適切な支援をさらに充実させていく。 また、対話的な学びの機会を増やしたり、生徒が認知の変容を実感できるような学習活動を多く取り入れたりすることなどを、教科担当全体で意識しながら、授業づくりを行っていく。
数学	どの科目でも４・３の評価が多く、数学に前向きに取り組んでいる生徒が多いと感じる。一方で、設問２・設問５では、１・２の評価が全体に比べて多く、他者の考えを聞き、自身の考えを深め広げることに苦手意識を感じている生徒がいることが分かった。	問題を解くために用いた公式や考え方を説明できるよう生徒が解答を板書し、他者の考えを知ることができるような対話的な授業展開ができるよう考えていきたい。また、自身の考えを振り返り、その問題の何が難しく感じているのか（問題の意味がわからない、求めたい値がわからない等）、どのような考え方をすれば解けるようになったのかなど、自身の考えをより深められるような問いかけや、授業における工夫をしていきたい。
理科	すべての設問において、生徒からの評価はおおむね高かった。傾向として、授業の受講人数が少ない科目ほど評価が高かった。 授業でできるようになったことが増えたと感じる設問４の評価が相対的に低かった。	・受講人数が少なく、個別指導に近い科目では生徒への支援が行き届いている。一方で、授業の人数が多くなるにつれて学習内容に不安を覚える生徒が増えている。引き続き、支援の方法を教科内で検討していきたい。 ・実験や発表活動を通して、身近な現象や生徒が体験したことを周囲に伝えるなど、生徒がフィードバックする活動の機会を増やしていきたい。
外国語	英語コミュニケーションⅢについては必修科目であるがゆえに習熟度にかなりの差があり、そのことが他の科目に比べてまだまだ評価の１がいくつか見られることにつながっているのではないか。	設問１が低かったので、各授業で単元ごとのゴールを明確に示すよう改善する。 設問７は評価が高くなっていたので、引き続き学んだことを関連付けた授業を展開したい。

家庭	すべて実習のからんだ科目であったが、概ね生徒の満足度を得ることができた。生徒が興味をもって自分自身の生活の質を向上しようとする姿勢が見えた結果であると思われる。 「保育基礎」では、講座人数が少なく、一つのテーマに対して皆で意見を出したり、他者の意見や考え方を共有できたことが良かった点だったと思われる。 「フードデザイン」では、実践的な実習を多く設定し、その都度の目的や方法を段階的に学ぶことができた。 「服飾手芸」では、個人の製作が中心で、技能を高めるための授業中心であったため、他者の考えを共有する機会は少なかったと思われる	引き続き、実習に至るまでの座学は、単元ごとに目的を示し、段階的に進めていくことを心がける。スライドを使って図や表で示したり、ロイロノートを積極的に使い、お互いの意見や考え方を共有していく。 「保育基礎」では、授業の始まりに歌を歌ったり、漢字の小テストをするなど、基礎学力を高めることも継続し、教科にあった取り組みを工夫していく。急がずに、一人一人に丁寧にかかわっていくことを心がけたい。
保健体育	体育の授業では毎回ねらいを示し、振り返りを行っている。そのため、設問1に関しては高い点数がついていると読み取れる。 設問２が比較的点数が低いことが課題である。	設問２について、生徒間の意見交換、話し合いの場面を増やし、改善をめざす。
芸術	今年度は卒業年次だけが受講しており、授業への理解、課題への取り組みなど、高いレベルで達成できている。授業アンケートを見ても、生徒の充実度を推し量ることができる。 ただ、これは例年も見られる傾向だが、設問２、３などの思考的な取り組みを問う質問で、やや低い点数が出ている。これは実技科目なので、思考を問うテストやワークシートが少なかったり、なかったりするからだと思われる。しかし、実は実技課題に取り組む中で、十分に達成できている内容で、生徒にも、その旨を注意喚起しているが、その点での理解が進んでいないことが原因として考えられる。	課題の欄でも書いたように、今年度は卒業年次だけが受講しており、授業への理解、課題への取り組みなど、高いレベルで達成できている。後期においても、この状態を落とさずに生徒が授業に取り組めるように、それぞれの教科担当で努力していく。併せて、作品を制作したり、演奏や歌唱をするなかで、思考力を働かせていることも、理解してもらえるように、工夫していく。
情報	情報Ⅱでは９割近くの生徒が３・４の評価をしており、ほとんどの生徒が授業を通してできることが増えたと実感している。 情報システムのプログラミングでは、母体数が２人と少ないが３の評価が多い。しかし、授業の内容が専門的なこともあり、設問５・設問６に関しては３の評価を下回っている。 ビジネスパソコン講座では８割以上の生徒が３・４の評価をしており、前向きに授業に取り組んでいると考えられる。一方で約２割の生徒はできたという実感がないまま授業が進んでいる。	ビジネスパソコン講座は、基本事項ができない生徒が多いので、基本的な説明をして、目標である検定に向けて準備をする。 情報システムのプログラミングは、課題を出して自分で解決できるようにしていきたいのだが、一からプログラムを作らせたら、ほとんどできなかったので、ＡＩを使って作れるようにしたい。